

# SCK NEWS vol.12

日本初

## 全国標準の新クリニカルラダー

公益社団法人日本看護協会（以下、看護協会と記載）は、2014年より従来のクリニカルラダー（看護協会版）を見直し、全国標準を旨とした新たなラダーを開発した。

従来のラダーは「自己教育・研

究能力」「組織的役割遂行能力」「看護実践能力」の3本柱で構成されており、とくに「研究能力」で研究する環境や機会がないという問題があった。そこで、新ラダーでは看護師共通に求められる「看護実践

### 奮闘！ 奮闘！ 奮闘！ インタビューリレー 第8回

#### 想像力を働かせれば、手術室にも看護はたくさんある

— 月並みですが、看護師を志望したきっかけは何ですか？

振り返ってみると、幼少のころから「将来の夢は看護師」と書いているんです。漠然と憧れていたんですね。でも、決定打となったのは中学生の時に母が2カ月余りも入院したこと。担当してくれていた看護師さんが「私に何でも言ってくれていいのよ」と声をかけてくださり感銘を受けました。

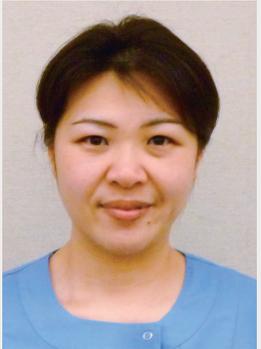
高校で普通科に行くこと気持ちが揺らぎそこで（笑）衛生看護科に進学しました。

— ご出身は九州とお聞きました。

はい、宮崎です。入職で東京に出てきて、それからずっとこちらで暮らしています。高校も寮生活でしたから、実家を出てからすっかり時が経ちました。実はあまりまめには帰省していなくて…でも娘が田舎好きで、長期休暇のたび祖父母に会いに行ってくれます。夏休みだと1ヶ月くらい行ったきりですよ。

— 手術室勤務になった経緯は？

入職時に外科系を志望したところ手術室配属となりました。大病院でしたが、当時から外回りで担当する患者さんへの術前訪問を実施していました。



高坂 涼子氏

【プロフィール】  
東京都済生会中央病院  
手術室 看護師長

働き始めて2〜3年目頃だったと思います。リウマチで何度も手術を繰り返されている患者さんの術前訪問にうか

能力」に重きをおき、「意思決定を支える力」「まわりと協働する力」「ニーズをとらえる力」「ケアする力」という新たな4本柱で再構成している。新ラダーでは、看護師として一貫したキャリアを形成できるよう考慮されており、働く場所が変わっても継続して看護実践能力を積み重ねることが可能になると期待されている。これにより、子育てで短時間勤務となった場合でも、1日1〜2例の実績を客観

的に分かる経験値として算出され、やりがいやモチベーションを維持しやすい環境に整えられるなど、マネジメントにも大いに活用できる。一方、独自にラダーを設けている病院では新ラダーと比較することで、課題発見や看護の魅力と向き合う良い機会にしてほしいとのこと。なお、新ラダーは、看護協会が主催する6月の平成28年度通常総会・全国職能別交流集会での正式発表を予定している。（畑山）

がうと、泣かれてしまつて。ずっと手を握りしめて、一緒に泣きました。「手術の時も、ずっとそばにいますから。麻酔がかかるまで、手を握っていますから、安心してください」と伝えました。すると、退院の時にわざわざ手術室を訪ねてきてくださり「あなたが担当で良かった」と手紙を渡されたんです。「これから担当する患者さんにも、同じことをしてあげて欲しい」と書いてありました。この体験が、今でも手術室で働き続ける原動力です。

— ご自身も、何度か手術の経験があるそうですね。

手術を受ける身になって、多くの気づきを得ました。想像以上に狭いベット、配慮なく取り除かれる上掛け。娘の出産が帝王切開でしたが、脊椎麻酔なので声が聞こえるでしょ。何気なく取り交わされる医療従事者の会話も、患者さんに不安を与えているのだとわか

り反省しました。

— 東京都済生会中央病院は、来年に新棟が完成しますね。

手術室は7室から12室に、スタッフも29名から48名へ増員予定です。今から、新人教育体制の充実と、中堅の看護師が働き続けやすいよう工夫をしています。すでに多様な働き方を実現しており、持病の制限に合わせた勤務をしている人もいますよ。

「暗い・怖い」イメージの強い手術室ですが、多職種との連携を密にして、看護師は笑顔で心がけています。すると雰囲気の良いのか、手術室希望の学生も増えました。手術室には看護がないという人もいますが、患者さんの声を傾聴し「安全・安楽」のために何ができるか想像力を働かせれば、手術室看護師が患者さんのために出来ることはまだまだたくさんあります。

（聞き手：陶守・畑山）

（庄畑）

第18回  
日本医療マネジメント学会  
4月に福岡で開催  
リブドゥはモーニングセミナー共催

2016年4月22日(金)・23日(土)の2日間、第18回日本医療マネジメント学会学術総会(会場：福岡国際会議場)が開催される。今年「明るい病院改革」改善とイノベーションで切り拓く明日の最適医療」をテーマに、クリティカルパス、医療安全、医療連携、職員教育など幅広い分野で意見交換が繰り広げられる。招待講演に豪華寝台列車「なつ星」で有名な九州旅客鉄道(株)クルーズトレイン本部長 仲義雄氏による「新たな鉄道の旅をつくる挑戦」、市民公開講座には一般社団法人アスリートソサエティ代表理事で元プロ陸上選手 為末大氏による「スポーツの可能性」など、異業界の練達による講演も注目だ。リブドゥコーポレーションでは、大会2日目の23日(土)朝8時よりモーニングセミナーを共催し、田中聖人先生(京都第二赤十字病院)を座長に、荒木昭輝先生(聖マリア病院)より、講演頂く。テーマは、「手術部各システムの実施情報連携とその集積データ解析の可能性」。聖マリア病院の過去から現在のデータ管理の仕組みと運用方法の変遷をたどり、手術別実施工報の蓄積の手法や看護師や事務職員の業務の工夫についてもご紹介する予定だ。（庄畑）

着々!?

# 東京オリンピック・パラリンピックに向けた 外国人患者受入れ体制

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会まであと4年。テロや感染症対策はもちろん、夏季開催に伴い熱中症患者の増加が予測されており、厚生労働省では来日外国人向けに多言語による熱中症対策情報の提供を順次開始している。

病院の受入れ体制としては、平成24年7月よりJ-MIP(外国人患者受入れ医療機関認証制度)がスタート。J-MIPでは、外国人患者を受入れる「基幹病院」の整備をすすめており、日本医療教育財団が認証機関として公募している。

「基幹病院」として認証を受ければ、医療通訳や宗教上の食事制限がある方への対応など、外国人が安心・安全に日本の医療サービスを受けられる体制の病院として大きなアピールとなる。運用の質をさらに向上するため、言語対応マニュアルの作成・外国人患者専用の入院部屋を完備するなど独自の工夫もすすんでいる。

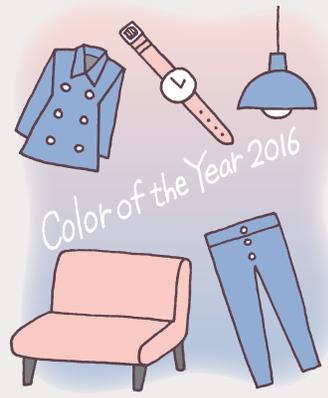


## 2色のグラデーションカラーに注目

毎年春になると、ニューズなどでトレンドカラーの情報を耳にするが、今年は「ローズクウォーツ&セレニティ」と呼ばれるパールピンクと淡いブルーのグラデーションカラーが注目されている。

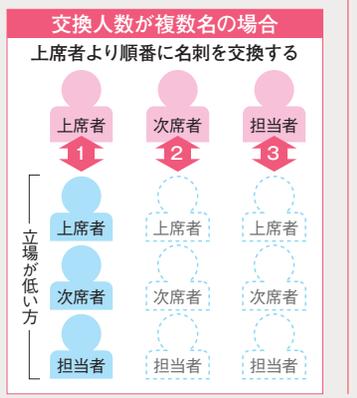
きっかけは、2015年12月にPantone LLC(以下、パントン社と記載)が翌年を象徴する色「カラー・オブ・ザ・イヤー」として発表したこと。色の選定には世界の多彩な領域(ファッション、エンタテインメント、美術、社会経済など)が加味されており、今年の色は、愛を象徴する「ローズクウォーツ」と、冷静を象徴する「セレニティ」をグラデーションにすることで、現代におけるストレス社会や性別の調和が表現されている。

パントン社はアメリカに本社を置く、世界共通の色見本帳を開発しているメーカーで、独自の色番



## 今より聞けない... 知って役立つ「名刺交換」のマナー

他施設との交流や業者対応など、挨拶の場が増える年度初め。初対面の場には欠かせない、名刺交換にドキッとされたご経験をお持ちの方がいらっしゃるのでは。実は、このような悩みを持つ看護師は意外に多く、接遇教育の一環として関心を寄せられる役職者も多い。背景としては、一般的に看護師は学校を卒業した直後に入職するため、ビジネススマナーについて学ぶ機会がほとんど無いからとのこと。特に、キャリアが浅いう



## 色の効能に着目したカラースクラブ

パントンのオリジナルカラーは、事務服や医療用白衣のユニフォームメーカーであるフォーク株式会社(本社:東京)に採用され、医療業界でも活躍している。同社とのコラボ商品である「PANTONEカラースクラブ」シリーズは、集中力アップのターコイズや、元気を与えるグリーン、



「Livedo topics」  
・サージカルドレープ専用シリブドゥコーポレーションが開発した不織布(リフタスE)を用いたドレープが好評。AAMI(米国医療機器振興協会)が定めるバリア性能の最高基準「レベル4」に相当し、上下外層は液体を吸収するスパノン不織布、中間層は液体の透過を防ぐポリエチレンフィルムの三層構造で液体防油性を高めている。また、低リントであることと柔軟性の高さが支持を得ています。眼科・外科・循環器内科をはじめ、あらゆる診療科向けにラインナップしております。詳細は弊社営業員にお問い合わせください。

【編集後記】  
人材育成や教育の体系化、そしてせっかく育てた人材が働き続けられる職場づくりは、業界問わず課題と認識しているのではないでしょうか。加速する少子高齢化で労働人口が減る一方の日本では、労働力の確保にどこも躍起になっています。

政府は一億総活躍社会の実現を旨とし、昨秋に女性活躍推進法を成立させ、大企業に対し行動計画の公表などを義務化したものの、想定以上に取組みが遅れているとか...。

看護協会の新クリニカルラダー開発のニュースに触れ、長年にわたる同協会の一貫した継続的な取組みに大いに習い学ばなければと痛感しました。 編集長 陶守久美子